


## 【 アジア大会 】



イランから帰国しましてあっという間に年を越し2月になってしまいました。帰国後にいろんな方々にお会いし声をかけて頂き、またろう者サッカーのことを話す機会を与えて下さったことをお礼申し上げます。監督に就任後初めてのアジア大会がイランで開催されました。空港でのさまざまなトラブルからはじまり中東という国の文化の違いに驚きを感じたのですが、何よりも一番大きな衝撃を受けたのがアジアトップと実力差の大きさでした。アジアのレベルは昨年の試合映像で確認しイメージを持ち1年間日本国内で合宿を重ねていき、手ごたえもあり取材に対しても目標は優勝と答えていましたが・・・開幕試合前の調整練習をみただけでイランとサウジアラビアは以前とはまったく別のチームに思えました。それもそのはずで8割、9割の選手がこの1年の間で選手が入れ替わっておりました。日本のレベルが落ちたのではなくアジアのレベルが半端なく想像以上にあがっていました。特にフィジカルやスピードの差がおおきすぎて、ほとんどの選手はまずそこを鍛えなければ海外で戦うことはできないでしょう。まず個で負けないことが試合では大切です。対戦する前から相手をすごいとは考えてはいけませんし、同じ人間だからやれると考えなくてははいけません。だからたとえとれなくても、強い気持ちをもってボールを猛烈に追いまわす体力も精神力も必要となってきます。逆にそこを普段の生活から意識して継続して鍛えていくと十分に戦えるという自信を持ったところもあります。環境の違いもあり持てる力を出し切れた選手とそうでない選手もおりましたが厳しい言い方をすればそれが現時点での実力です。優勝したイランに入ってプレーできるのは個で考えると現段階では「竹内」1名のみでしょう。彼のいいところは基本技術がしっかりしており、どんな状況でも冷静に対応でき、その場面でどんなプレーが必要なのか判断できる能力がすぐれているところです。自分自身も今大会で監督として選手への対応などいたらなかった点があり反省し申し訳なかったと思っております。今大会での一番の収穫は他国の練習を見学でき監督と今後のろう者サッカーについて意見交換ができたことです。アジア勢は世界で勝つことができているので世界で勝つ為にアジア全体のレベルアップが不可欠で意見が一致し、特にイラン監督のサレックとは初対面とはおもえないぐらい、やりたいサッカーが同じで、お互いのチームのいいところ、悪いところやトレーニング方法などを夜更けまで情報を交換できました。普通なら試合前の練習は非公開なのですが、高橋名誉会長の顔ですべてのチームからこころよく許可を頂き改めて偉大さを感じました。デフリンピックアジア予選が今年10月に台湾で行われます。その第1歩として代表合宿を初めてフットサル・サッカー合同で行い60名の選手・スタッフが兵庫県に集結します。イランから帰国し3ヶ月ぶりに成長した代表選手と新しく召集した選手に会えることをいまから楽しみにしております。